

## 第 39 回世界遺産委員会決議事項について

## 議題 7B 世界遺産一覧表記載資産の保全状況

## 13. 知床（日本）（N 1193）

世界遺産一覧表記載年

2005 年

クライテリア

(ix) 、 (x)

世界危機遺産リスト掲載年

N/A（該当せず）

過去の委員会決定

37COM 8E、36COM7B.12、32COM7B.16、29COM8B.6

承認された国際援助件数と金額

いずれも 0

UNESCO 臨時予算基金（Extra-budgetary Funds）

N/A

過去のモニタリングミッション

2008 年 2 月：UNESCO/IUCN 合同ミッション

過去の報告で確認されている資産に影響を及ぼしている要素

- ・ダムを含む河川工作物が産卵のためのサケ科魚類の遡上に及ぼす影響
- ・2008 年の合同ミッションで示されたその他の要素

現在の保全上の課題

2015 年 1 月 21 日、締約国は本資産の保全状況に関する報告書を提出した。同報告書は、これまでに委員会によって留意された事項についての情報を以下の通り提供している。

- ・日本海を回遊するトドの個体数が回復し、絶滅危惧Ⅱ類(VU)から準絶滅危惧(NT)にランクが下がった。しかしながら、個体数の増加が漁業被害の増加の原因になっているとも

- 報告されている。このため、本州の絶滅リスクを回避するために、トドの駆除は、予防的かつ順応的なアプローチに基づいて継続される。北海道全体としての採捕可能上限頭数は、2013/2014年の257頭から2014/15年には516頭に引き上げられた。しかしながら、本資産を含む根室海域に來遊するトドの採捕可能上限頭数は、15頭のままである。
- ・資産内の5つの河川に建設された13の河川工作物の改善の後に実施された、サケ科魚類の遡上と産卵の状況に関するモニタリングは2013年までに完了し、その結果が報告書の附属において示されている。2013-2014年及び2019-2020年に更なるモニタリングが行われる予定である。
  - ・ルシャ川の3つのダム of 改善によっていくつかの肯定的な示唆が得られているものの、これらのダムの下流域における河床低下が上流へのサケの遡上に悪影響を与える可能性や、ダムによる流路の固定や伏流浸透水の阻害によってこれらの間の産卵床の数を減少させることについて、懸念がある。
  - ・2006年に上流の2つのダムが改善されて以降、ルシャ川のダムには改善が行われていないが、サケの産卵の改善と定置網漁場への災害被害の防止の間でバランスがとれることを条件に、更なる改善の可能性についての議論が行われているところである。
  - ・ルシャ川河口にあったサケ・マス孵化場は2012年に撤去された。

#### 世界遺産センターと IUCN による分析と結論

トドの健全な個体数を維持するための締約国の努力は留意される。締約国が提供した2006年~2014年にかけて知床半島東岸におけるトドの越冬個体数についての調査は、全体として個体数が増加していることを示唆している。しかしながら、このようなレベルの変動では、このような肯定的な傾向が現在維持されていると結論するのは困難であり、2010年/2011年シーズン以降の減少傾向が妥当であると思われる。このため、世界遺産委員会は、締約国に対し、資産内、そして更に広域の海上景観において安定~増加するトドの個体数を維持するために、捕獲割当量が定期的に点検・調節されることを確保するように強く勧める (urge) ように勧告される。

河川工作物の改善による肯定的な影響が報告されていること、そして自治体や地元社会との協議が行われていることについて留意した上で、本資産中で最も重要なサケの河川系であるルシャ川にダムが存在することにより、サケの遡上と産卵に負の影響が生じているとの懸念が残る。こうした懸念は締約国によってその報告書の中で確認されている。

2012年にルシャ川の河口にあったサケ・マス孵化場が完全に撤去されたこと、孵化場に通じる道路や橋が市民に利用されていないことは留意される。したがって、3つのダムが減災において果たす役割は、人命よりもむしろ生計手段の保護に限定されることになる。このため、これらのダムについては、もたらされる利益よりも、本資産の顕著な普遍的価値 (OUV) に与える影響の方が大きい。

海域と陸域の生態系の相互作用は、本資産の OUV の不可分な要素であり、サケ科魚類の自然な遡上や産卵は、その相互作用にとって不可欠である。このため、世界遺産委員会は、

ルシャ川の3つのダムに対する更なる改善の実施に進捗がないことについて懸念を表明し、締約国に対して、以下についての検討を含むこれらのダムの更なる改善を継続するように要請 (requests) するよう、勧告される。

- ・水面下のコンクリートを含めダムを完全に撤去するという選択肢
- ・正常な伏流浸透水の流れを回復するとともに、川の枝別れや蛇行を促進してサケ科魚類の産卵環境を改善するため、かつての孵化場に通じる道路や橋を完全に廃止・撤去すること

詳細な技術的検討が必要であることを踏まえ、世界遺産委員会は、締約国と IUCN の SSC サケ科魚類専門家グループに対し、入手可能な最善の科学的知見に基づき、最も適切で実践可能な解決策に関するコンセンサスを見出すように強く勧める (urge) ように勧告される。締約国は、この目的のために IUCN の諮問ミッションの招聘を希望することができる。

#### 決定案：39 COM 7B.13

世界遺産委員会は、

1. 作業文書WHC-15/39.COM/7Bを検討し、
2. 第36回遺産委員会における決定36COM 7B.12を想起し、
3. 日本海や資産内におけるトドの健全な個体群を維持するための締約国の努力に留意し (notes)、資産内及びより広域な海上景観において安定～増加するトドの個体数を維持するために、採捕上限頭数を定期的に点検・調節するよう、強く勧める (urges)。
4. 報告されている河川工作物の改良がもたらした好影響について賞賛を持って留意する (notes with appreciation) 一方で、2012年の第36回会合における世界遺産委員会の要請通りに、ルシャ川のダムについて追加的な改善が行われていないことについて、特にこれらのダムが下流側の河床やサケ科魚類の産卵環境の利用可能性に負の影響を与えているという締約国自身が留意している懸念に照らして、懸念をもって留意する (notes with concern)。
5. 自然状態のサケ類の遡上と産卵は、「海域と陸域の生態系の相互作用の顕著な例」であり、本資産に不可欠であると考え。また、2012年にルシャ川河口の孵化場が撤去されたことにより、3つのダムによる災害リスク削減に係る利益よりも、本資産の顕著な普遍的価値に及ぼす影響の方が大きくなっていると考える (considers)。
6. 更に締約国に対し、ルシャ川の3つのダムの影響を十分に緩和するため、地方自治体及び地域住民と緊密に協議しつつ、これらのダムについて完全撤去という選択肢の検討

を含む更なる改善を継続すること、また、水面下のコンクリートの除去という選択肢も検討すること、更に、表流水と伏流水の正常な流れを回復させるとともに河川の枝別れや蛇行化を促進することでサケ科魚類の産卵環境を改善させるために、旧孵化場に通じる道路や橋を完全に廃止・撤去することを、強く勧める（urges）。

7. 締約国及び IUCN の SCC サケ科魚類専門家グループに対し、現在得られる最善の科学的知見に基づき、最も適切かつ実践可能な解決策に関するコンセンサスを見出すこと、及び、これらの課題に関する助言を行う IUCN の諮問ミッションを招聘する可能性を検討することを勧告する（recommends）。

8. また、締約国に対し、2017年の第41回会合での世界遺産委員会による検討のために、世界遺産センターに2016年12月1日までに、本資産の保全状況や上記の実施状況について、1ページの要約を含む最新の報告書を提出するよう要請する（requests）。